

題材検討会

日時 平成23年 3月12日(土) 13:00~

場所 幌西小学校

- 1、 会長挨拶
- 2、 伊藤善彬先生のお話
- 3、 質疑応答
- 4、 休憩
- 5、 授業テーマ説明
- 6、 扉会議
- 7、 終わりの挨拶

全国図画工作・美術教育研究大会 授業・提言・扉分科会概要（案）

授業分科会

10:40

12:30

授業者

参会者・授業者

助言者

授業概要説明

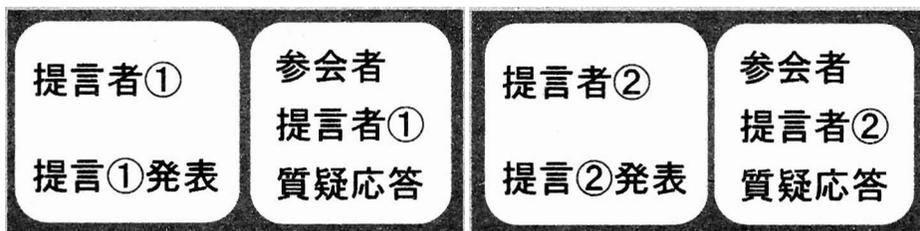
授業研究討議

授業研究講評

提言分科会

13:45

15:15



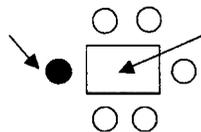
16:45

概要説明
開始の放送

校種・地域を取り混ぜて少人数のグループを作り、テーマに沿って話し合う。結論出すことではなくて、交流すること自体が目的で、ワールドカフェ風的方式で行う。

終了の放送

司会者
札幌



模造紙などを用意し思い付いたことを自由にメモしていく。茶菓子などがあっても。

×170グループ

※ ワールドカフェは、休憩室などの話し合いが活発になる取り入れた手法。リラックスした空間の中で創造性にとんだ会話が生まれ、文化や状況の共有や新しい知識の生成が行われる。

研究主題

“わたし”を創る造形教育～自立と共生をめざして～

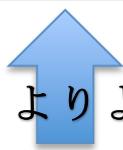
授業テーマ

『あったかい!』をつなげ合う造形活動

扉

子どものまなざし ・ 教師のまなざし ・ 未来へのまなざし

子どものまなざし	教師のまなざし	未来へのまなざし
扉の主題		
目の前の幼児・児童・生徒の感性を引き出せる教材化・題材構成になっているかを学習者の視点から問い直す	子どもたちの資質や能力をとらえ、育む「指導と評価」について教師のかかわりを問い直す	未来につながる子どもの生きる力を「社会とのつながり」や「授業の広がり」の可能性を通じて育む造形教育を問い直す
扉の視点（授業改善・研究討議の視点）		
<p>○幼児・児童・生徒の「やってみよう」を引き起こす「感動体験」のある魅力的な題材（教材）の作成および題材構成の工夫</p> <p>○「感動体験」を引き出し、子どもが自分自身のもので受け入れられるような、“投げかけ” “かかわり方” の工夫</p>	<p>○育みたい資質や能力をとらえ、子どもが“わたし”の形や色を創り出し、美しさを求めることができる指導の工夫</p> <p>○子どもの姿の中に資質や能力の表れをとらえ、価値付けながら子ども理解を深めていく評価の工夫</p>	<p>○対象を形や色彩などの特徴からとらえ、そのよさや美しさを感じ取る力を育む工夫</p> <p>○対象から感じ取ったことや、自分のもったイメージを伝えるコミュニケーションの力を育む工夫</p>
授業とのつながり		
<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもの思いを大切に授業 ◆子ども同士のつながりが見える授業 ◆子どもと教師のつながりが見える授業 ◆子どもの資質や能力の流れに合っている授業の接続（題材の構成） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもに近付き寄り添い導く指導がある授業 ◆子どものよさを発見する評価がある授業 ◆授業のねらいが明確で、ねらいに迫る手立てが見える授業 ◆よりよい授業への授業改善の提案がある授業 	<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもの未来を支え、創り出す資質や能力の育みを提案する授業 ◆学校、教科、授業などの枠組みを柔軟にとらえた授業 ◆人間性の伸長を明確に主張できる教科性が見える授業 ◆生涯学習の視点をもった授業



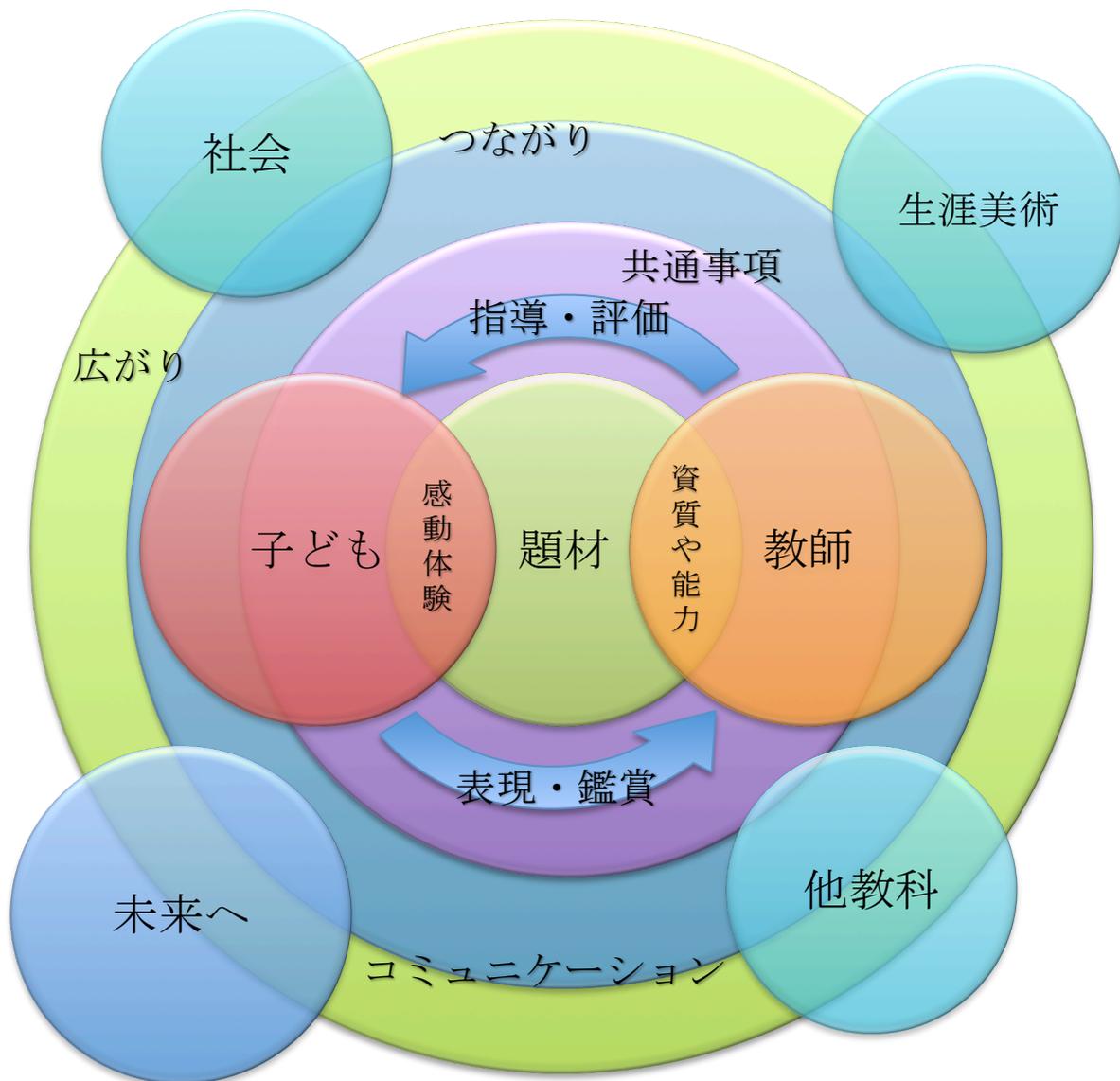
よりよい授業をめざし、扉から提案・検証する

図工・美術のよりよい授業とは
 (教科論) (授業論)

『あったかい！』をつなげ合う扉の構造図

子どもは魅力的な題材と出会い、「感動体験」によって造形的な資質や能力を発揮していきます。教師は育みたい資質や能力を明確にもち指導を行い、子どもの表現や鑑賞の活動の過程や作品などから目標に準拠した評価をします。また、社会教育の仕組みや教科を越えた資質や能力の育みに着目した授業づくりにも可能性を探ります。

このような子どもの姿を中心にした題材づくり、教師の指導や評価を行うことによって、図工・美術（保育を含む）の学習（活動）で育む資質や能力や、思考力、判断力、表現力、更には、意欲的に学ぶ姿勢といった「生きる力」を育むことができます。



“まなざし” でつながる
北海道の授業